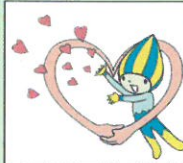


ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部県民生活課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市藪田南2-1-1(県庁6階)
電話058-272-8199

第22号

令和元年9月発行

29 特定非営利活動法人 まごの手クラブ (海津市)

理事長:谷 芳和

活動地域:海津市全域

事務局:海津市平田町今尾861

今回は、岐阜県の最南端、海津市に活動拠点を置き、人々が安心して暮らしていくために、本当に困ったときお互いに助け合える住民相互の支えあいの仕組みをつくり活動されている、特定非営利活動法人「まごの手クラブ」さんにお邪魔し、お話を伺いました。

海津市の概要

平成17年3月28日、海津郡の3町(海津町、平田町、南濃町)が合併し海津市となる。

岐阜県の最南端に位置し、西部・南部は三重県、東部は愛知県に隣接している。

東海地方の代表的河川である木曾川、長良川、揖斐川が流れ、平野には豊かな田園地帯、西部の養老山地の麓には、みかん園や柿園が広がる。

【地域のデータ】 ※令和元年7月1日現在

12,268世帯 人口 34,390人 高齢化率 32.5%

まごの手クラブの歩み

平成14年1月29日 平田町社会福祉協議会内にボランティア組織として発足

平成16年12月13日 特定非営利活動法人化

平成18年10月～ 海津市委託事業タイムケア※1を開始

平成29年10月～ 海津市委託事業訪問型サービスB事業※2を開始

※1 障がい児等の一時預かり事業

※2 地域住民主体の高齢者生活支援サービス事業

活動のきっかけと経緯を教えてください

まごの手クラブは、平田町社会福祉協議会の支援のもと、地域住民によって組織化された団体です。

介護保険などの公的サービスとは別に、ちょっとした困り事をお手伝い出来ればと、平成14年に住民参加型住宅福祉サービス「まごの手クラブ」として結成されました。家事援助や外出援助など様々なサービスを提供する中で、まごの手クラブの最大の特徴である柔軟なサービス提供をより高めるためには、社会福祉協議会での活動ではなく、独自の意思決定により事業を進めていく必要があると考え、平成16年にNPO法人化しました。

「まごの手クラブ」の名前の由来は何ですか?

孫の手のように、かゆいところに手が届くサービスの提供をしたいという思いから「まごの手クラブ」と命名しました。

具体的な活動状況を教えてください

平成30年度の協力会員(正会員・賛助会員・特別賛助会員)は43名、利用会員は160名でした。利用サービス数は延べ2,637件で、その大半を、移送サービスと家事援助が占めています。

移送サービスでは、通院、買物、美容院等の送迎や介助等のお手伝いをしています。家事援助では、食事の支度、洗濯、住居の掃除や庭の草むしり、生活用品の買い物等、多岐に渡ったサービスを提供しています。

その他、産前産後のお手伝い等の子育て支援や、犬の散歩、話し相手、ゴミ出し代行等、日常の困り事に柔軟に対応しています。

また、海津市委託事業として、タイムケア(障がい児等の一時預かり事業)や、



3台の移送サービス車が活躍中



車いす介助の様子

訪問型サービスB事業(地域住民主体の高齢者の生活支援サービス)も行っています。
平成30年度の活動状況は次のとおりです。

| | 活 動 内 容 | | | | | 海津市委託事業 | |
|----------|---------|------|-------|---------|-------|---------|---------|
| | 移送サービス | 家事援助 | 子育て支援 | 左記以外の活動 | 合 計 | タイムケア | 訪問型サービス |
| 利用件数(延べ) | 1,965 | 571 | 36 | 65 | 2,637 | 313 | 833 |

活動の特徴は何ですか?

○有償によるサービスの提供

サービスの担い手、受け手が共に会員となり、安価で均一の金銭のやり取りをすることで、利用者も気兼ねなく頼むことができ、心の負担が軽くなります。

○社会貢献と生きがいづくり

担い手である協力会員も、自分の手の空いた時間を有効活用でき、地域のため、自分の生きがいのために活動することができます。

○きめ細やかなサービスの提供

会の由来である孫の手のように、かゆいところに手が届くよう、利用者さんの希望に添ったきめ細やかなサービスを心掛けています。



まごの手クラブのパンフレット



活動における課題はありますか

まずは拠点づくりです。現在の事務所は賃貸スペースのため、拠点としては安定していないことから、腰を据えて活動ができる、活動拠点を作りたいと考えています。

それ以外でも、後継者不足という課題があります。現在、クラブの協力会員(正会員)は35名、平均年齢68歳(下は51歳から、上は75歳まで)、うち17名は70歳以上と、高齢化が進んでいます。目先の収入だけを考えれば、他に様々な仕事があり、助け合いの精神を持った方でないと、なかなか続きません。「困っているときはお互い様」「お金に代えられない生きがいを見つけたい」という方に、ぜひ私たちの仲間になってほしいと思っています。

取材を終えて

「困ったときはお互い様」、「みんなでお互いに助け合って行こう」という合言葉のもと、地域の人々が安心して暮らせるまちづくりをめざし、お金ではなく、地域のため、困っている方のため、そして自分自身の生きがいのため、生き生きと活動される姿がとても印象的でした。

谷理事長、伊藤前理事長をはじめとする事務局のみなさんには、お忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

地域の課題解決応援事業をご活用ください!

自治会・まちづくり協議会など地域住民主体の団体を対象に、防災、防犯、福祉、まちづくり活動など、身近な地域の問題や課題の解決につながるヒントを提供する専門家をアドバイザーとして派遣したり、地域住民の間で課題を洗い出し共有するワークショップを行う場合のファシリテーターを派遣するなど、要望に応じて課題解決の応援をします。

例えば...

- 高齢者に地域で生き生きと活躍してもらうための講座を開きたい!
- 地域で防災について学びたい!
- まちづくり活動を活発にしていきたい!

詳しくはホームページ検索サイトで **地域の課題解決応援事業**

検索

講師の謝金・
交通費は
県が負担!

